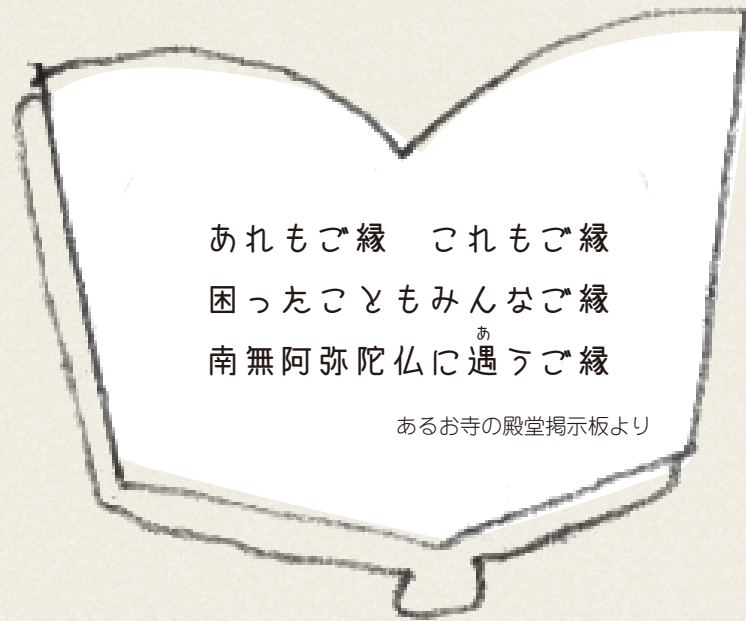


いのちの葉

ご縁をしみじみと味わう



■ 水之江 陽子 みづのえ ようこ
布教使 / 大分

寂しい想いのたび

少し前の春の彼岸会^えの頃、ご法話に寄せていただいたお寺の掲示板で、この言葉と出会いました。

聞けば、そのお寺では、ご門徒の方が法語を選んで、毎月、黒々とした墨で板書しておられるとのことでした。

この法語を選ばれた方は、家族を見送るなかでお寺へのお参りを重ね、自然と手が合わさっていくことがうれしいと、話してくださいました。お寺に来て、いろんなお手伝いをするのが私の喜びなのだと笑った顔がととても輝いて見えました。

寂しい^{さび}想い^{おも}、つらい想いをするたびに、南無阿弥陀仏に出^で遇^あわせていただいていると思うと、何となく寂しさやつらさが和^{やわ}らぎますね、とお話ささせていただきました。

仏さまの願い

人は、一人では生きていけません。支え合い、助け合い、想い合い、繋^{つな}がり合って、私たちは生きています。

その、一つひとつの結びつきや、出会いを「ご縁」と呼びます。人と人との繋がり、モノや言葉との出会い、さまざまな出来事…それはうれしい、楽しいことばかりではありません。むしろ、苦しくて悲しくてつらいことの方が多いような気がします。

そんな私の苦しみに「苦しいね」と、悲しみに「悲しいね」と、喜びに「うれしいね」と、私の心そのままに、かならず救う、助けるから安心して生きてくれよ、と願ってくださっているのが、阿弥陀如来という仏さまです。

阿弥陀さまは、「南無阿弥陀仏」というお姿で、私の口からお出ましくさいます。私の口は普段、愚痴^{ぐち}や不平や不満、人さまの悪口や噂話、自慢^{うそ}や嘘^{いか}や怒りに任せて、お聞かせできない言葉ばかりに使われています。その同じ口から、いつのまにか南無阿弥陀仏という仏さまのお名前^なが零れてくださるのは、私の力ではありません。そのことを、しみじみと「ご縁だなあ」と有り難く思います。

このたび、私の心に大切にとどまっている言葉を、毎月、「いのちの葉」として味わうご縁に恵まれました。正直、困ったことになったと頭を抱えております。しかし、その姿のまま、まさに、いま、このとき、南無阿弥陀仏に遇わせていただいているのだと、一人、お念仏を聞かせていただいている私でありました。